

まことに小さな君が

理事 北原 巖男

君は、東ティモールというアジアにある二十一世紀最初の独立国を知っていますか。

厳しい独立闘争を経て、今は平和の中で国づくり、人づくりに取り組んでいます。人口は一二〇万人、平均年齢は十八歳。

君と同じです。まことに小さく、若く、これからです。

高校を卒業した君は、これから自分が選んだ道を歩き始めます。選挙権も取得します。お母さんからも次第に自立して行くことでしょう。

僕は、そんな君が、いろいろな体験を通して、どう変化し成長して行くか、辛い試練の中からいかに這い上がって行くか、問題山積の東ティモールの若者たちに対すると同じように、とても期待しています。

いつもは元気な君も、失敗や悲しみ、孤独感や自信喪失の中で、「もうだめ……」と思う苦境に陥ることもあるでしょう。

実は、そうした体験や逆境を経験したことの無い人は、この世の中には誰一人としていません。

だからどんなに苦しくても、自分で自分を「可哀相な悲劇の主人公だ」と決めつけてはダメ。むしろプラス志向。今、置かれた厳しい状態でなかったら得られなかった、考えられなかったメリットが必ずあります。それはすぐ分かります。それをバネにして君のパッションに火をつけましょう。

「よし、今、自分がやるべきことはこれだ。ただひたすら真っ直ぐやっけて行く。それでいいじゃないか！」

司馬遼太郎さんの著書「坂の上の雲」は、次のような書き出しで始まっています。「まことに小さな国が、開花期をむかえようとしている」

僕は君に贈ります。

「まことに小さな君が、開花期をむかえようとしている」

君自身の、あの坂の上の雲をめざして頑張っけて行っけてください。

君と同じ東ティモールには、こんな言葉もあります。

「君ならできる。だつて君だもの！」

卒業、おめでとう！

(一社) 日本東ティモール協会 会長・元防衛施設庁長官)

「文学」第34号/平成28年(2016年)
古岡操学会第34期生・文集
公益財団法人古岡操学会
平成28年1月1日発行

